

### ③ 教育目標

#### 丈夫で明るい子 すべての育ちは「動き」から

命の始まりは、細胞分裂による猛烈な動きからです。その後6週ごろには心拍が確認されます。脳が作られる前に動きがはじまるのです。動き始めることは育ち始めることです。

子どもの育ちは動きとともにあります。子どもたちはたくさん動きまわり物事と出会うことで、心も動かしていくようになります。体も心も丈夫になることは、育ちの根底をなすことで、意欲の源になります。

#### 最後までやりぬき頑張る子 意欲を活かせること

子どもは意欲の塊です。動きたい、立ちたい、見たい、やりたい……。意欲を達成するために子どもは何度でも挑戦します。その意欲を次の育ちにつなげるのは、「できた」という達成感です。多くの体験をする中で、子どもたちは多くの「できた」に出会うことができます。できたという経験は、自己効力感を高め自分の可能性を信じること、つまり「自信」を深めることになります。

#### みんなと仲良く思いやりのある子 社会の中で輝ける基礎作り

社会人に必要な技術のなかにコミュニケーション能力があります。集団の中で折り合いをつけながら自己を発揮し幸せに生きる力、それがみんなと仲良く思いやりのある子の未来の姿です。自己中心の世界に生きている新生児が、徐々に自己と他者の区別が付き始め、「みんな」の存在を感じながら自己の一部の様な安心できる大人と過ごす時期を経て、自分をケアしてくれる年上の子どもとふれあい、年下と関わり同年の子どもとやり取りができるようになる。乳幼児期は凄まじい心と脳の変化を遂げます。人として生きる力のまさに基礎を築く重要な学びをするのです。

#### よく考えて物事を工夫する子 知恵を生かして生き抜く力

言葉一つとっても、知っているだけでは役に立ちません。いかに活用できるかが本当の能力と言えるでしょう。遊びは、工夫する機会にあふれています。子どもは遊ぶことで工夫しているのです。知識はあるだけでは役に立ちません。多くの学びはよりよく生きるための糧となるべきです。糧にできるのは知識を活用できてこそ。遊びを通じてよく考え工夫する体験を積み重ねることで生き抜く力が培われ、学童期以降に吸収する膨大な知識を人生に生かすことができるようになります。集団での遊びは工夫を広げます。他人と協力してより多くの達成感を味わうこともまた、大切な学びとなります。